

説明責任を考慮した道路事業の評価 整備効果の算定支援

テーマ 道路事業の評価、整備の必要性、整備効果

キーワード 整備効果、B/C、渋滞損失、交通量推計

道路整備効果の調査・評価

道路整備に対する厳しい社会環境と経済環境の下で、道路行政は成果主義への転換が図られています。そこで費用便益比（B/C）を含めた道路事業を評価する、道路の事業評価制度（事前・事後）の取り組みが始まっています。これにより、行政は、道路事業について事前調査・事後調査の実施により整備効果を明らかにする必要があります。

また、これまでに増して行政は事業の透明性を高め、説明責任を果たすことが求められています。そのために、実施した事業がもたらす円滑なモビリティの確保、国土・地域ネットワークの構築、安全な生活環境の確保、生活環境の改善・保全などについて定量的な効果を示すことが必要です。

当社は、これら整備効果の調査・評価について、企画提案から各種資料作成支援まで、豊富な経験を生かして行政の取り組みを支援します。

サービス内容

整備効果の調査・評価では、事業評価や記者発表、住民説明などに必要な内容を検討して、必要な事前・事後調査を企画・実施して算出します。

1. 整備効果項目・調査内容の企画・提案

対象事業から期待できる整備効果について、事業特性、地域特性に応じたきめ細かい効果項目を検討します。

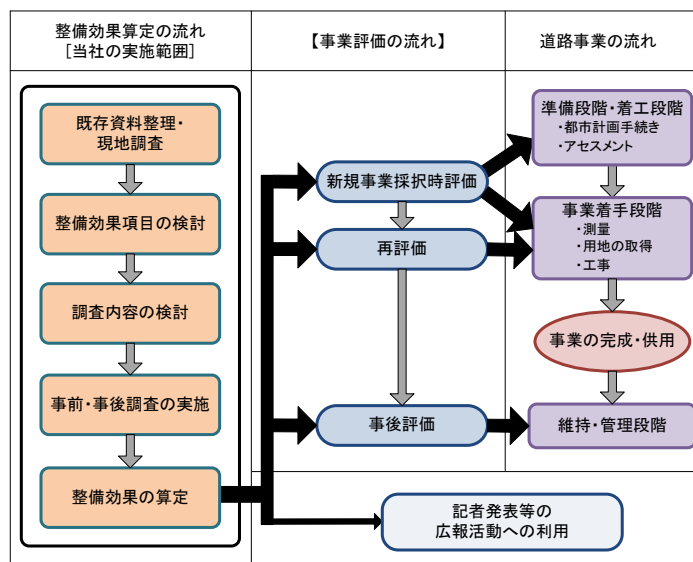
2. 事前・事後調査の企画・実施

整備効果の算定に必要な事前・事後調査内容の企画提案を行います。

整備効果の算定に必要な客観的データ、地域の意見を得るための交通実態調査やアンケート調査等を実施します。

3. 整備効果の算定

調査結果を用いて、費用便益比を含めた整備効果を算定します。また、事業評価、住民説明、記者発表など広報活動の資料について作成支援します。



日本工営株式会社

お問合せ

内容に関するご質問は、以下のページからお問い合わせ下さい。

URL <http://www.n-koei.co.jp/contact/>

技術ポイント

■ 整備効果項目の企画・提案

- ◆ 事業計画および現地調査から、事業および地域の特性を反映した分かりやすい整備効果項目を検討提案します。地域の交通特性を反映できる指標を検討し、説得力のある事業評価資料・広報資料の作成を支援します。

■ 事前・事後調査の企画・実施

- ◆ 設定した整備効果項目を算出するために必要な定量データを取得する交通実態調査を検討・提案します。
- ◆ 地域の住民や事業者の経験に基づく整備効果の実感や間接効果、今後の課題を把握するため、アンケート・ヒアリング調査の対象・調査項目を企画・提案します。
- ◆ 事前評価、再評価など事業準備段階・着手段階では、将来交通量推計やミクロシミュレーションにより交通流の変化を算定します。

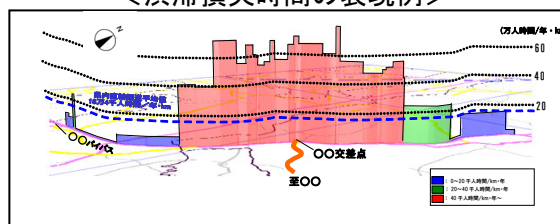
- ✚ 交通量調査、渋滞長調査
- ✚ 旅行時間調査、バス旅行時間調査
- ✚ 交通量推計・ミクロシミュレーション
※将来の整備効果を算定する場合
- ✚ アンケート・ヒアリング調査
- ✚ 写真撮影

等

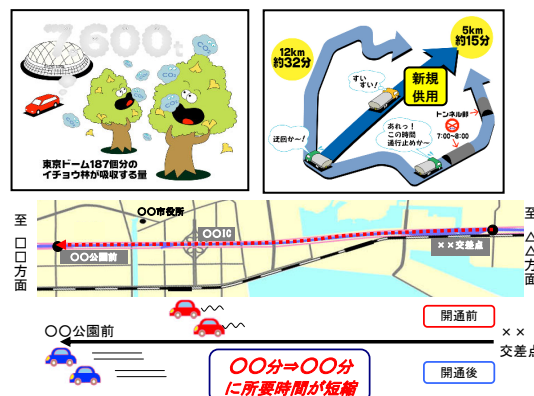
■ 整備効果の算定

- ◆ 直接的な整備効果（費用便益比、渋滞損失時間、CO₂排出量など）は、費用便益分析マニュアル（国土交通省道路局、都市・地域整備局、H30.2）等により算出し、事業評価委員会の評価項目を算出します。
- ◆ 整備効果は、調査結果から比較整理を行い、地域住民にも理解しやすい図表でビジュアルに表現します。
- ◆ 事業評価資料、記者発表資料、広報資料、住民説明資料などの資料作成を支援します。

＜渋滞損失時間の表現例＞



＜CO₂ 排出量削減、所要時間短縮効果の表現例＞



関連技術

■ 交通量推計

将来の交通量を予測して、事業の供用前後の道路網の交通量などを算出します。道路整備による、対象地域の交通量の変化や旅行時間の短縮などの効果を予測することができます。

■ ミクロシミュレーション（交通流シミュレーション）

事業供用後の将来の交通流について、道路線形、交差点、沿道からの出入りなど車両一台一台の挙動を解析して、交通量、渋滞長、平均通過速度等を予測します。予測結果は、アニメーションにより交通流動の変化を表示することで直感的に表現します。



関連実績

当社は、全国において国土交通省（地方整備局、国道事務所）、地方自治体の事業評価、整備効果調査の実績があります。

対象事業内容：広域幹線道路の連続立体化事業、交差点改良、バイパス道路の整備、交差点の立体交差事業、現道拡幅事業 等